

「急げ、自転車運転の交通安全対策」

続いて、2項目めの質問に入ります。

交通安全対策についてお伺いをいたします。

交通事故は、かけがえのない命を奪い、被害者・加害者とも、平和な暮らしが一瞬にして破壊されてしまいます。

先日、町民会館あじさいホールにおいて開催された「安全・安心なまちづくり推進大会」において、一昨年（2019年）の10月以降、死亡事故がゼロ件ということで、交通安全活動に対し、愛知県警察本部長より町長へ感謝状が贈られました。その後も、連続日数を続けております。この表彰の意義は大きいものであり、行政・地域・学校・事業所など、すべての関係者の努力のたまものと敬意を表するものであります。

しかし、愛知県は5年連続の死亡事故件数全国ワーストワンであり、現時点でも昨年を上回っております。岡崎市においては、1月早々、連続して4名の死亡事故があり、1月26日に交通死亡事故抑制緊急アピールが出されております。このように、常に交通事故に対して気を緩めることがあってはならないというふうに思います。

昨年の住民アンケートの結果も、「住みよいまち、住みやすいまちを実現するために特に力を入れてほしいこと」の2番目に、「交通・防犯などの安全対策」とあるように、住民も交通安全対策を大いに希望していることがわかります。

そこで質問に入りますが、まず町内の今日までの交通事故の状況と、町としての交通安全活動の総括をお願いいたします。

○議長（鈴木三津男君） 総務部長。

○総務部長（新家道雄君） 交通事故の状況でございますが、本町におきましては、平成20年10月26日に発生しました交通死亡事故以来今日まで、490数日になるわけですが、死亡事故ゼロを記録いたしておるところでございます。交通安全啓発活動の成果というふうに思っております。さらなる記録の更新を願うところでございます。

愛知県下の状況につきましても、平成21年は、死亡事故につきましても227名という数値でございます。これは、4年前の平成17年と比較しますと、35%の減少ということで、愛知県としても年々減少傾向にはございますが、残念ながら全国的に見る

と、ワーストワンを5年続けておるといふ実態でございます。

特に、21年度の交通事故の特徴でございますけれども、県下では、その犠牲になられた方の大半が高齢者ということでございます。227名中107名の方が高齢者であるということでございます。

また、事故の発生箇所が交差点内ということでございます。62.6%の割合で、交差点内での事故が発生をいたしております。

警察署単位で言いますと、岡崎警察署管内で、21年は死亡事故が19名ということでございます。県下ワーストワンでございます。この管轄下にあります幸田町につきましては、死亡事故ゼロということで、特徴的な結果になっております。

本町の死亡事故も、過去には最高年間8名の死亡者があった年が4回ほどございます。それと比較しますと、ゼロということは、非常に交通安全が徹底してきたというふうに認識をいたしておるところでございます。

ただ、本町の昨年の交通事故によります重傷者7名、軽傷者252名という数字につきましては、高どまりで推移しておるといふ状況でございます。紙一重で死亡事故につながるということも十分考えられますので、引き続き交通安全の啓発には努めてまいりたいというふうに思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（鈴木三津男君） 1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） ただいま総括された内容を踏まえて、町として今後の交通安全推進の進め方、あるいは対策の方向性、簡単にお聞かせください。

○議長（鈴木三津男君） 総務部長。

○総務部長（新家道雄君） 幸田町の啓発活動としましては、高齢者交通安全教室を年6回、保育園児交通安全教室を町内全保育園で実施、春・夏・秋・年末の交通安全週間におきましては、警察交通指導員、交通安全協会事業所による街頭指導、それらにさらに地域の役員様、PTA、母の会が加わって、街頭指導に当たっておるところでございます。

さらには、小学校区単位でローテーションを組みまして、通学路危険箇所の点検も実施いたしております。

また、一昨年設置しました「地域安全ステーション」によります交通安全啓発のパトロールを進めておるところでございます。

○議長（鈴木三津男君） 1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） 私のところに町内の自転車利用者、あるいは近隣の自転車愛好家から、「幸田町の道路は自転車では危なく、走りにくいね」という声があることを申し上げ、今回は自転車の交通安全対策に絞ってお聞きをしてみたい。

まず、町内における最近の自転車が関係する事故の発生状況と、その傾向をお伺いいたします。

○議長（鈴木三津男君） 総務部長。

○総務部長（新家道雄君） 過去3カ年の岡崎警察署管内の自転車に係る死亡事故でございますが、19年に1件、20年はゼロで、21年は1件ということでございます。これは、あくまでも岡崎警察署管内の数値でございます。

自転車事故につきましては、幸田町におきましては、19年で27件、20年で25件、21年で32件の自転車の事故が発生いたしております。

○議長（鈴木三津男君） 1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） 最近、エコ通勤、あるいは渋滞緩和、健康増進ということで、車の利用を控え、自転車の利用の呼びかけが増えているということではありますが、自転車で安全かつ快適に町の中を走れるかと言うと、そうはなっておりません。事実、今も答弁があったように、管内でも自転車での事故でとうとい命が奪われております。

交通事故全体の発生件数が減少している中で、自転車事故の割合は増加しておるということでありまして、愛知県内においても、昨年、自転車に関係する死亡事故は40人ということで、5件に1件は自転車による事故ということでありまして。

現状として自転車は、歩道か車道のどちらかを走るしかなく、常に歩行者と車と接触する危険にさらされているということでありまして。

さらに、自転車は手軽でもありますが、時速20キロを超えるスピードが出て、衝突時の衝撃は非常に大きくなります。

また、飲酒、無灯火での運転、会話をしながら、飲食、音楽を聞きながらなどと、危険な要素が多く含まれております。

自転車の安全対策を進めるためには、安全な乗り方を啓発するソフト面と安全な通行環境を整備するハード面の両面において、取り組みの強化が求められます。

そこで、まずソフト面についてお伺いいたします。自転車走行に関するマナーについて、学校等にしっかりと教育をすることも大変重要であるというふうに考えます。小・中学校などで、自転車のマナー向上教育の現状と今後の事故防止教育に対する取り組みをお伺いいたします。

○議長（鈴木三津男君） 教育部長。

○教育部長（牧野良司君） 小・中学校における自転車マナー向上の教育ということでのお尋ねであります。

まず、現在の幸田町3中学校の自転車通学の状況であります。幸田町中学校では22.4%、南部中学校では72.4%、北部中学校では67.7%の生徒が自転車通学をしております。その生徒に対しまして、年度の初めに通学団会や学級活動の時間に、自転車の点検やマナー、通学路の確認などを行っております。

平成20年の6月に道路交通法が一部改正されました。これは、主に自転車の通行等に関する改正で、特に歩道走行や児童のヘルメット着用の努力義務が盛り込まれております。

私ども教育委員会といたしましても、これを一つの契機といたしまして、歩道通行ができる箇所や、逆にこうした指定のない通学路の現状把握の調査もいたしました。

加えて、この道路法改正を交通安全の意識づけの機会としまして、子供たちに対してヘルメットの着用や登下校の安全について一層留意するよう、指導の依頼をいたしました。

一方、小学校では、各学校ともに交通安全教室を実施しております。警察署の方や交通指導員の方々を講師にお招きしまして、自転車の乗り方や点検の仕方、交通マナーに

ついでに講話や、実際に自転車に乗っての走行訓練、道路の渡り方など、実施しております。

さらに、小学校・中学校いずれでもありますが、教員が実際に街頭に立って、PTAや区長さん、安全ボランティアの方々と連携を図りながら、防犯パトロールも兼ねて、登下校の安全指導を行っております。

このように、交通安全指導は、各学校において継続的・定期的を実施してきております。

いずれにいたしましても、学齢期にきちんとした交通マナーを身につけるといことは大変重要であると考えております。今後も、交通安全指導につきまして、地域と連携を図りながらともに取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○議長（鈴木三津男君） 1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） 次に、一般自転車を運転する人、特に高齢者への交通安全の啓発についてはどのようにされているのか。

先ほど答弁がありましたので、特に新規、見直し、改善された項目で結構ですので、お聞かせください。

○議長（鈴木三津男君） 総務部長。

○総務部長（新家道雄君） 高齢者の自転車の関係での交通安全啓発の新規なものということでございますけれども、特別なそういった新規はございませんが、従来から行っております「高齢者交通安全教室」を年6回行っておるわけですので、そういった中で、特に自転車での注意喚起をするような指導を十分加えていきたいというふうに考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（鈴木三津男君） 1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） 次に、ハード面についてであります。自転車道路の整備もあまり進んでいない中で、ただ単にルールを守れ、あるいは取り締まりということでは、少し矛盾があるようにも思います。事故を未然に防ぐような仕組みをつくっていかなければ、自転車の事故自体は減らないというふうに考えます。

広い道路の一部をカラー舗装して自転車専用レーンにした事業や、国の自転車通行環境整備事業など、今後の道路整備や既存の道路において危険な箇所等は早急に見直し、整備を進める必要があると思います。

先日、資料としまして、通学路の歩道の危険箇所の点検結果の一覧表は見させていただきましたが、町内の自転車道路の現状をどのようにとらえられており、危険箇所の情報をどのように吸い上げて改善を進められているのか、その仕組みがあればお聞かせをください。

○議長（鈴木三津男君） 建設部長。

○建設部長（鍋田堅次郎君） 自転車専用道路という形での道路はありませんので、今は自転車と歩行者が一緒になる歩道を今整備するのが、現在行われている県道の岡崎幸田線やドミーの前の美合幸田線は1メートル50でありますので、さらに1メートルを広げる2メートル50の工事、あるいは野場横落線等、自転車と歩行者が共存していただいでやっていく整備を当面行っているというのが現状であります。

学校周辺の安全対策や何かは、毎年度、通学路の点検を土木課の職員も一緒に参画をいたしまして、危険箇所、自転車に限ってのご質問でありますので、そういったことについては、社会制度では標識だとかいろいろなことはありますが、現段階では、歩行者の安全と自転車が共存できる環境を整えていきたいと、こういうふうに思っております。

○議長（鈴木三津男君） 1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） 幸田町の「都市交通マスタープラン」の「総合交通戦略」というところでは、自転車移動に対する住民の満足度を、現状の10%から30%へと具体的な数値目標を上げられております。

車社会の中で、歩行者や自転車の安全を確保できる道路をどう整備するのか、国が新たに示した自転車重点都市制度を活用して、自転車専用レーンや駐車場の整備など、町全体が自転車の活用を考えた道路整備に発展させていくことが必要だというふうに思います。町としてどのように進められるのか、お考えをお聞かせください。

○議長（鈴木三津男君） 総務部長。

○総務部長（新家道雄君） 計画上の位置づけについて、私の方からお答えをいたします。

都市交通の長期計画といたしまして、幸田町都市交通マスタープランを、平成20年、21年度にかけて策定をいたしました。そのまた短期・中期の事業プログラムとして、幸田町総合戦略も平成21年度に策定をいたしました。

この戦略では、「移動しやすい安全・安心なまちづくりの達成」を掲げております。自転車と分離され、ゆとりある歩行者空間や自転車走行空間の構築を図り、町民の誰もが安心・安全に移動できる町を戦略目標といたしております。

具体的な施策でございますが、この計画の中に歩道の新設改良の関係におきましては、県道岡崎幸田線、県道美合幸田線、町道（仮称）相見駅前線、県道芦谷蒲郡線、町道芦谷1号線などが、この計画路線として位置づけをいたしております。

学校周辺の歩道空間の整備といたしましては、各小学校周辺の歩行空間の整備を予定いたしております。

自転車走行空間の整備としましては、県道岡崎幸田線、県道芦谷蒲郡線、町道（仮称）相見駅前線を計画上に位置づけをいたしております。

○議長（鈴木三津男君） 1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） 自転車専用レーンというのは、人と車の安全な走行を確保しつつ、車両の円滑な通行を阻害しないという見地から、指定の基準といたしまして、歩道が整備され、かつ歩道と車道の間で最低でも幅1.5メートル以上の自転車専用の通行帯を確保できる道路と限定されております。

安城市は、新年度に自転車道路の建設を3億2,000万円を予算化しております。本町の既存の道路をこのようにはすぐに改善していくということは容易ではないというふうに思いますが、しかし安全・安心なまちづくりを目指す本町としては、モデル的なしっかりとした自転車専用道路等も進めるべきだというふうに考えます。その点についての考えをお聞かせください。

○議長（鈴木三津男君） 建設部長。

○建設部長（鍋田堅次郎君） 議員のご質問のとおり、安城市さんが自転車空間を整備され

る、これは18メートル道路で、今、両側に4.5メートルの植樹帯と歩道があるわけですが、片方を3メートル50にしまして、5メートル50にして、2メートル25の自転車帯を設けると。

私どもも、今、岡崎幸田で行われておる県道やなんかは16メートルです。16メートルと言うと、3.5メートルで植樹帯が入った歩道です。専用レーンを設けると、先ほど来、最低限可能は可能ですが、そのことによる錯綜の方がかえて不都合が起きるといふことで、18メートル道路というの、実は先ほど総務部長が言いました、県道では芦谷蒲郡線、それから町道では相見線、幸田高校から相見駅へ向かっていく、あれが18メートルでできていますので、それから駅へ向かっては30メートルの都市計画道路を予定しますので、そういったところでは、今、議員のお話のとおり、車道側にも1メートル50の駐車帯があるもんですから、そこを空色に塗るとか、歩道の中で1メートル50を専用レーンにするとか、そういったことは駅と30メートル道路と、そういったところで検討が十分できる。18メートル道路がないと、やっぱりそういった専用区間を設けることは非常に厳しいという現状がありますので、安城市さんの例のお話もありましたが、そういったことについては、道路管理者として自転車と歩行者の安全をより確保するための政策として検討をしていきたいと思っております。

○議長（鈴木三津男君） 1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） 最後の質問項目になりますが、社団法人自転車協会によりますと、従来は自転車への幼児2人の同乗は禁止されておりましたが、警察庁が提示した車体の強度や安全性、ハンドルやブレーキ等、安全確保の6項目、この基準が適合すればよいということで、この適合の自転車が昨年7月から発売がされました。3人乗りということばかりではなくて、自転車運転自体の安全性も向上が図られたというものであります。1台の価格は5万から13万円ということでありまして、普通の子育て世代には購入するということでは少し厳しい価格だというふうに思います。

西尾市は、ことし1月4日から、3人乗り自転車を県の子育て支援対策基金事業費補助金で購入し、市内25カ所の保育園・幼稚園に2台ずつ設置して、無料で貸し出しを行っております。碧南市も、2月1日から県の補助金で購入し、レンタルを開始しました。また、安城市も、新年度事業で取り組みを発表するなど、全国の多くの自治体がサービスを拡大しております。

本町とこれらの市町とでは、都市の形態が違ったり、あるいは住民のニーズには差があるかとは思いますが、自転車の交通安全対策として3人乗り自転車の無料貸し出しサービスを実施する考えについて、それと刈谷市や豊田市は、この3人乗り自転車の購入ということで補助金も出してあります。これは、子育て支援や少子化対策がねらいという事業であります。交通安全対策にも有効と考えます。近隣のこのような動きに対して、本町の対応の考えをお伺いいたします。

○議長（鈴木三津男君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（音部年秀君） 今言われました愛知県が行っております国の緊急経済対策に基づく安心こども基金「地域子育て創生事業」の中のサンプルメニューの中の一つとして、3人乗り自転車というのが提示をされたわけでありまして。

これは21年度からでありますけれども、このものにつきまして、私どもは21年度は申し込みをしませんでした。そのかわりではないわけですが、各保育園など、あるいは児童クラブに加湿の空気清浄機の購入事業などを12月補正でもお願いして、取り組んだばかりでありますけれども、この3人乗り自転車が、言われますように、警察庁の認可を得てまだ半年しかたっていないということで、安全だから警察が認可をしておるわけですが、その安全性が本当に大丈夫なのか、3人乗り自転車で前後に6歳未満の子供を乗せる、そして真ん中で運転する人は16歳以上の人でなければならないというような、そういう基準もありますし、利用者の評価などについてもまだ十分ではないというふうなことを思っておりまして、私どもとするとこの21年度でこれに乗っていくことはやめたわけではありますが、それからもう一つは、自転車が、先ほどから言われていますように、気楽に走れる町内に道路があるのかという問題があるわけです。私たちが一生懸命3人乗り自転車をアピールして、たくさん乗ってもらうのはいいわけですが、しかし十分安全に走れる道路がやっぱり不足しておるといような問題、それから需要があるか、ニーズがあるかということにつきましては、保育園の保護者で、今、自転車で子供を送り迎えしている人が何人いらっしゃるのかということで調査をしましたところ、2人乗りで、子供1人を乗せて保育園に通うというのが26人、それから3人乗りをやっているというのは、豊坂保育園で1人だけあったわけです。

それほど少ないわけで、車で普通は送り迎えをしておる、そのことの方がよっぽど安全だということでありまして、私どもとしてはちょっとこの話はあまり積極的に乗ることにはならないわけではありますが、22年度には、啓発用として2台購入をしたいというふうには考えておるところであります。貸し出しをすとか、あるいは補助金をつけるということにつきましては、私たちとしては考えておりません。

○議長（鈴木三津男君） 理事者をお願いします。

残り時間にご留意いただきたいと思います。

○議長（鈴木三津男君） 1番、酒向君。

○1番（酒向弘康君） ニーズが少ないというふうに言われましたが、今後、さらに安全・安心なまちづくりを推進していくために、先を見て、潜在的な住民の声を取り入れながら計画的に進められて、交通事故を1件でも減らしていくという事業展開を希望し、私の質問を終わります。

○議長（鈴木三津男君） 1番、酒向弘康君の質問は終わりました。

ここで、10分間の休憩といたします。

